

月刊やちまなこ

2011.9.15 発行

No. 166

9月号

釧路湿原国立公園 塘路湖エコミュージアムセンター（あるこっと）だより



湿原も所々黄色くなり始め、川にはサケと思われる魚影が見えた。コガネギクやツリガネニンジン、イネ科の植物が生い茂る傍では、川音とともに虫の鳴き声も聞こえ、草の匂いを運ぶ風は夏から秋へと季節の移ろいを感じさせてくれる。

コッタロ川と湿原のほとりから

135 9月のコッタロ湿原便り

コッタロ在住・中本 アキ子(文) 中本 民三(写真)



冷夏をしめくくる秋の長雨が霧雨のセレナーデを奏でる中、最早『花酣の季』を過ぎてしまった花野から聞こえてくるのは虫達のすだく音ばかり。真に“眠られぬ夜の為にこそかねたたき上田五千石”の句がよぎるひととき、孤愁の姿を浮かびあがらせ乍らきくともなしにきく雨音がいつの間にか雨垂れのエチュードへと移行しているではありませんか。

ゆくりなくも12号台風の北上で幕が開けられた9月は「戻り夏」の嬉しいプレゼントに悲喜こもごも。もわっとした朝の空気と蒸し暑さに、じっとしていてもしみ出る汗、久方ぶりに味わう

夏日でした。ところが暴風雨の最も激しかった3日夕刻、塹へ飛んだ丹頂のコツ&タロ&19羽目(一九さん)の一家3羽に不幸が待っていたとは!!.....4日朝から飛来しているのは親鳥2羽のみで一九さんはいなくなっておりました。考えられるのは、乾燥化に拍車のかかった湿原に繁茂するカン木や、ヤチハンノキ等々の隙間を縫う様にして翼を折りたたみつつ舞降りなければならぬ彼等にとって、その神技的着地に幼鳥だけ失敗したのでしょうか。ちょっとした油断が命取りになってしまう自然界の掟を思い知らされた一件でした。

一方の第2コツ&タロ&14, 15羽目は元気に4羽揃い踏みの毎日です。

さて、庭の干草に全身を撫でられて狗草(猫じゃらし)と戯れているのはエゾ鹿の母子で、仔を亡くした鶴のをまるで「おなぐさめ」している様ではありませんか。ふてぶてしくも堂々と我が家を見廻っているのを見ると番犬の如く映るそうです。又、窓から見える電線で賑やかに“キャッ、キャッ”と連続音を発しているのは山セミの母さんで、池に泳ぐ魚のうち、手頃な大きさが見当たらず、御不満気に叫んでいるのでモデルになってもらったのですが、彼女はなんと30分余りくつろいでおりました。

まばゆい朝の光が晩秋の湿原に照り映ゆる今、改めて一九さんの冥福を祈らずにいられません。





北海道から九州に分布するベニシジミは、30円の普通切手の絵柄になっていることから身近な生き物のひとつといえるでしょう。春から秋にかけてセンター前の草地でもよく見かけます。地面に近い所を飛び、草花に止まっていることも多いので観察しやすい蝶です。写真は日差しの中で輝くオレンジ色が印象的な春型で、幼虫の時の日長によって色彩が決まるそうです。不思議な仕掛けがあるものですね。

【8・9月の自然ふれあい行事から】

・個性あふれる作品を展示。平成22年度自然ふれあい行事「バードカービン講座」参加者の作品を7月23日から8月21日までレクチャールームで開催しました。今回は湿原の冬鳥であるウソをモデルに15名の参加者の個性あふれる作品を講師の沢田さんの作品とともに展示しました。夏休み期間でもあり、多くの来館者に見てもらい、「いまにも動き出しそうな作品」とか「いきいきと生きる野鳥の姿に感激」などの感想をいただきました。



・針穴写真の魅力。自然ふれあい行事「針穴写真講座」を今月3日に開催しました。空き箱と直径0.2ミリの穴を開けたアルミ板を使いカメラを作り、中に印画紙を入れて撮影しました。こんな小さな穴で写真が撮れるのか？と参加者は疑問を抱きながら撮影しましたが、現像の段階でゆっくりと現れた画像に驚いたようで、そのあと写真に仕上げてみると長時間撮影した写真は肉眼でもデジタル写真にもない独特な雰囲気を持つ写真に参加者も驚いていたようです。尚、やちまなこ表紙の写真は針穴カメラで撮影したものです。



つぼっちの塘路周辺うろうろ（製作）日記 Vol.58「岬に生きる人々」

10月7～21日の日程で、塘路湖EMCにて行われる、郷土館特別展「しべちやの遺跡 最前線！」の準備を行っています。近年、郷土館や塘路湖EMCのある塘路で発掘調査が続き、大型竪穴住居や縄文時代のお墓などを発掘しました。その中で新たに分かった事もあり、この機会に展示をする事にしました。

展示では模型も幾つか作るのですが、現在製作中なのが塘路周辺の6000年前の情景ジオラマです。その時代この付近は海となり塘路湖も海の一部でした。実際にジオラマを作り住居などを配置してみると、塘路の先史時代人が岬のような場所に住む人々だった事を改めて実感しました。生活全体が海に大きく依存していたのでしょう。今の風景も並べて展示するのですが、まったく情景が違います。

自然の移り変わりに合わせて、人々は生きていた事を改めて感じました。（といつつ宣伝させて頂きました。閲覧無料ですのでお気軽にご覧下さいね。）

坪岡 始（標茶町郷土館学芸員）

9 がつ 12 にち	はしよ 縄文時代の住居
------------	-------------

左手の白い円形の部分が、縄文時代の住居が置かれる場所です。
 現在海の色は塗っているのですが、全体の2/3が、海で満たされる予定です。

10月の行事カレンダー

各行事とも事前の申込が必要です

秋のキノコ観察会

[日時]10/15(土) 10:00～12:00
[定員・参加料]15名、無料
[場所]塘路湖EMC周辺
[集合場所]塘路湖エコミュージアムセンター

バードカーピング講座1回目(全5回)

[日時]10/23(日) 11:00～15:00
[定員・対象]15名、11/13、12/18、1/22、2/19の
全5回参加可能な方
[参加料]初回のみ材料費4,000円
[場所]塘路湖EMCレクチャールーム
[持ち物]エプロン、鉛筆、定規、昼食

タンチョウイラスト巡回展 [日時]9/30(日)まで [場所]塘路湖EMCレクチャールーム

*釧路・根室管内の小中学生が描いた494点の力作を展示しています。入場無料。

標茶町郷土館特別展「しべちゃの遺跡 最前線！」

[日時]10/7(金)～10/21(金)まで [場所]塘路湖EMCレクチャールーム
お申し込み お問い合わせは 塘路湖エコミュージアムセンターまで 015-487-3003

秋の湿原花ハイク [日時]10/16(日)10:00～12:00

お申し込み お問い合わせは 温根内ビジターセンターまで 0154-65-2323

塘路湖・シラルトロ湖・コッタロ湿原周辺の自然情報

【植物】(8/16)エゾシロネ・ナガボノシロワレモコウ・オオハンゴンソウ・ハンゴンソウ (8/22)エゾトリカブト・シラヤマギク・コガネギク (8/27)ヒヨドリバナ・ハッカ・ヤナギタンポポ・ノブキ花と実・エゾノミズタデ・ヒシ花と実・ミゾソバ (8/28)イケマ・クサノオウ・イチゲフウロ・ヒツジグサ (9/1)ハナイカリ (9/6)キクイモ (9/10)アキノウナギツカミ・ガマ・カラハナソウ・ヤマハハコ (9/11)タニソバ・ハナタデ・オニノゲシ・チドリケマン・ツリフネソウ・ミヤマニガウリの実・コウライテンナンショウの実・ネバリノギク

【鳥】(8/28)オオハクチョウ・マガモ・カワセミ (9/6)ハヤブサ・ゴジュウカラとシジュウカラの幼鳥・ヤマセミ (9/9)オジロワシ (9/11)ムクドリ・アカハラ (9/12)タンチョウ

【その他】(8/15)エゾトンボ (8/27)モンスズメバチ (8/28)シオカラトンボ・ルリボシヤンマ・クロイトトンボ (9/10)キタキツネの死骸・マユタテアカネ・ミヤマクワガタ (9/11)コエゾトンボ・ヒメリスアカネ・ベニシジミ・ウラギンヒョウモン・オオウラギンスジヒョウモン・シマヘビ・キタキツネ (9/13)キトンボ

サルボ展望台・サルルン展望台は、木道(階段部分)一部破損のため、8月22日より立入禁止となっています。(開通は未定)

日出・日入時間 9/15(5:01,17:34)・9/30(5:17,17:07)・10/14(5:34,16:43)



球を狙うキタキツネ(9/11 塘路PG場)

釧路湿原国立公園

塘路湖エコミュージアムセンター あるこっと

088-2264 北海道川上郡標茶町塘路原野

TEL:015-487-3003 FAX:015-487-3004

E-mail:emc@hokkai.or.jp

開館時間 10:00～17:00(11月～3月は16:00まで)

休館日:毎週水曜日 12月29日～1月3日 入館無料